

# 第40回日本医療福祉設備学会に向けて

第40回日本医療福祉設備学会

学会長 信川 益明

慶應義塾大学医学部教授

## I. 学会のメインテーマと開催目的

2011年11月9日(水)～10日(木)に第40回日本医療福祉設備学会が、一般社団法人日本医療福祉設備協会(HEAJ)主催により開催されます。また、併設展示 HOSPEX Japan 2011は、社団法人日本能率協会との共催により2011年11月9日(水)～11日(金)に開催されます。

## 第40回日本医療福祉設備学会のご案内

主 催：一般社団法人日本医療福祉設備協会

学 会 長：信川 益明 慶應義塾大学医学部 教授

副学会長：本多 敦 株式会社日建設計 設備設計部門副代表

副学会長：池川 充洋 株式会社ケアコム 代表取締役社長

展示実行計画委員長：中山 茂樹 千葉大学大学院工学研究科 教授

会 期：2011年11月9日(水)～10日(木)

会 場：東京ビッグサイト 会議棟

テ ー マ：生活支援・医療連携・生きがいづくり実現のための医療・福祉設備  
～高齢者向け見守りネットワークと ICT～

## HOSPEX Japan 2011展示会のご案内

主 催：一般社団法人日本医療福祉設備協会

社団法人日本能率協会

会 期：2011年11月9日(水)～11日(金)

会 場：東京ビッグサイト 東展示棟

後 援：総務省、外務省、厚生労働省、経済産業省、東京都、東京商工会議所、日本貿易振興機構(ジェトロ)、アメリカ大使館商務部、英国大使館貿易・対英投資部、ノルウェー王国大使館通商技術部、フィンランド大使館商務部、など(申請予定)

学会のメインテーマは「生活支援・医療連携・生きがいづくり実現のための医療・福祉設備」です。現状において、人の生活様式とライフステージに合った医療・福祉システムを構築することが必要となっており、今後、その求めが高まると考えられます<sup>1)</sup>。

高齢者が健やかに過ごせるための生活環境整備のために、国の政策方針の変遷、プライマリ・ケアの役割、医療連携、福祉連携、住民ニーズの把握、健やかに生きるためのアプローチ、人のライフスタイルとライフステージにあった支援システム構築が必要です<sup>2)</sup>。

経済産業省平成21年度地域見守り支援システム実証事業<sup>3,5)</sup>の如く、高齢者向けの見守りネットワークを構築するためには、生活支援機能、医療連携機能、生きがいづくりの実現が重要です。その際、在宅医療、在宅ケア、医療施設、社会福祉施設、訪問看護ステーションなどにおいては、医療・福祉設備の活用・技術の応用及び情報通信技術 ICT (Information and Communication Technology) ツール活用が必要となります。

健康科学、医療科学、環境予防医学と医療・福祉設備関連領域の諸学問との融合が不可欠です。加えて、行政、医療・福祉関連企業、医療・福祉関係施設、関連学会、地域の各種団体、地域住民等による連携と統合の推進が急務です。

農林水産省「食」に関する将来ビジョン検討本部の如く、関係者の相互認識・理解の場を設定することが重要です。具体的な取組としては、生活支援機能に関する情報提供としての ICT 活用が考えられます。

## II. 学会の企画 (予定)

学会の企画は、下記の6つの視点から考えています。

1. 施設内設備から、健やかに生きることのできる街づくりのための医療福祉設備のソフト・ハードの活用による地域への拡大
  - ・施設内設備、施設間連携、住宅設備、インフラ活用、関係者の相互認識・理解の場の提供
  - ・健康科学、医療科学、環境予防医学と医療・福祉設備関連領域の諸学問との融合
  - (例) ・高齢者が健やかに過ごせるための生活環境整備
    - ・政策方針の変遷、プライマリ・ケアの役割、医療・福祉連携システム構築
    - ・住民ニーズの把握、健やかに生きるためのアプローチ
    - ・ライフスタイルとライフステージにあった支援システム構築
    - ・生活支援機能、医療連携機能、生きがいづくりの実現
    - ・在宅医療、在宅ケア、医療施設、社会福祉施設において、医療・福祉設備の活用・技術の応用及び ICT
2. 従来の学会テーマの継続

安全管理・健康・コミュニケーション・インフラ・グローバルなどの従来の学会テーマを継続

- (例) 感染管理、感染制御、病院設備運用管理技術者(仮称)の認定制度、病院機能評価、病院建築、医療安全、病院施設・設備、臨床工学、省エネルギー、医療情報、病院物流、施設計画、病院のBCP、防災・リスクマネジメントなど
3. 日本医療福祉設備協会活動との連携
  - ・日本医療福祉設備協会が保有するノウハウの展開の場として学会を活用
  - ・施設見学報告、調査事業報告などの内容を学会において発表、討議して、日本医療福祉設備協会活動の広報と連携を推進
4. 産学連携の接点の場としての機能
  - ・最先端技術に基づく、具体的な産学連携を推進するための接点の場としての機能
  - ・学会において企業取組みの事例報告の場を提供(新たに「活動報告」を募集)
5. 専門家との接点の場
  - ・病院設備運用管理技術者(仮称)、地域見守りコーディネータなどの専門家の間の接点を学会において提供
  - ・「住宅設備の健康住宅ガイドライン」の策定などの新たな取り組みを支援する場を提供

## 6. 医療福祉設備機器展示会との融合企画の充実による連携の強化

- ・ 日本医療福祉設備学会、HOSPEX Japan 2011及び日本医療福祉設備協会誌「病院設備」との融合企画を充実することにより、展示会との連携を強化

## Ⅲ. 今後の予定

今後は、学会および展示会の準備活動を、下記の通り進めていく予定です。

- ・ 学会展示委員会を開催（従来の学会企画と展示企画との連携を目指す）
- ・ 一般演題の募集に加えて、新たに活動報告の募集
- ・ 学会テーマ賛同企業による企画展示の検討
- ・ 「病院設備」による学会テーマの狙いについての詳細の発信、学会企画および展示企画のPR
- ・ 学会ホームページおよびHOSPEX Japan 2011ホームページによる広報活動

学会及び展示会の準備状況などの情報は、学会ホームページ、協会誌「病院設備」、HOSPEX Japan 2011ホームページなどにより入手して下さい。協会会員、関係者、一般、学生など本学会に関心のある皆様の多数のご来場をお待ちしています。また、一般演題、活動報告に応募頂き、学会において企業の取組みに関する学会発表、活動報告をお願い致します。

## 参考文献

- 1) 信川益明：都市型高齢者向けネットワークと医療・福祉設備—生活支援・医療連携・生きがいづくり実現とIT—。病院設備 52(4)12-15、2010
- 2) 信川益明：人の生活様式とライフステージに合った健康支援情報システム—医療科学、環境予防医学と健康科学との統合—。Health Sciences 26(1)9-16、2010
- 3) 慶應義塾大学医学部：平成21年度経済産業省地域見守り支援システム実証事業「新宿における都市型高齢者向け見守りプロセス基盤実証事業」事業報告書、2010
- 4) 信川益明：在宅高齢者の見守りと生活支援のための医療・福祉連携サービスの構築～経済産業省平成21年度地域見守り支援システム実証事業 新宿における都市型高齢者向け見守りプロセス基盤実証事業～。日本健康・栄養システム学会誌 10(1)21、2010
- 5) 信川益明：高齢者の生活様式とライフステージに合った健康支援情報システム—医療連携、生活機能支援、栄養ケア・マネジメント、地域見守り支援システム—。Health Sciences 26(2)63、2010